

506章 「夢と幻」

2016年6月9日、木曜日
永遠なる創造主に聖なる者!

(1) 「夢と幻」
ジャニン・ソトロン著書
印刷発行
ロイ・レムキ
安息日と、イエスの信仰とを含めた
、神の戒めを守る
ヒラデルヒヤ教会
「残りの民」
イエスの信仰：
それは預言の御霊です。
永遠なる 創造主に 聖なる者!

「夢と幻」第一

(1) フォート・デ・フランスにおいて
マルチニーク島の頭上にある
空からやって来る
燃える火の炭の雨

(2) 私は幻へと出発しました。私はフォート・デ・フランスに居ます。この首都に「残りの民」の信仰にある兄弟姉妹たちがいます。

(3) 彼らの幾人かの者たちは見張っていることを止めて、セブンスデー・アドベンチスト教会の中で彼らが吐いた物に戻って行ったのを、私が見たとき、私は教授されました。この小さい群れの中で、非常に少数の者たちだけが残りしました。

(4) 主の警告に対する不注意により、彼らの生活は信仰のない、神と隣人とのための愛のない、そして準備のない生活となったのです。

(5) その幻の中で、それは朝でした。それは、私が天からやって来ているラッパの音によって心が引き寄せられたときであって、大変に静寂なときでした。

(6) 私は空の方に向かって目を上げて見つめています。そして、私は、雷雨の用意がされているかのような荒れ模様の空を見ました。

(7) 私は、地球へと下って来る一塊のような空についてこの幻を見ました。私は身震いしました。そ

して、この声が出ているのを聞きました。そして、私はこう出ているこの声を見ました。

「わたしの恵みは、
あなたに十分です!」

(8) 起きている事で、私が理解できなかったことよって引き寄せられて、私は再び見つめました。しかし、私は外にいる事と、避難場所を持っていなかったと言う事よって、私は恐れさせられたのです。

(9) 私は幻の中で上のほうに上がって行っていたことに、気づきました。私は、自分が

摂氏 300(華氏 572)度に熱せられた炉

の中にいる事を発見しました。

(10) 私の霊は地球に戻って来ました。そして空気は非常に熱く感じました。酸素は不足していました。私は窒息しそうでした。私は泣き叫びました。「空気、空気! 私はもう全く呼吸していません!」

(11) 一つの声は私の回りで響きました。

「わたしの恵みは
あなたに十分です!」

(12) 突然、その空気は軽くなりました。私は、もはや、私の頭の上で熱した炉を感じませんでした。私はこの災害を通過して行く用意が出来ました。太陽は悲しそうに見えました。

(13) 私がこの「残りの民」のこの小さい群れを見た時、恐るべきふるいがあったこと、それがほとんど

大半の者たち

がセブンスデー・アドベンチストに戻って行ったことに私は気づきました。しっかりとつかんでいた二人の者たちだけが残りしました。

(14) 他の者たちは、SDA に宗教を求めて、すなわちこの教会の中の容易な道を求めて、そこへ行くことよって背教しました。

— 姦淫
— 姦通
— 詐欺行為
— 金銭と世俗への愛

「夢と幻」第二

(1) ロイ・レムキ兄弟に伝達されるための一つの幻の中で、イエスは

緊急の改革

に従って、エレン・ホワイトによる 1888 のメッセ

ージを復習するように嘆願されました。

(2) この「残りの民」は彼らが確実に神と共に、神に従っていたこととと思っていたのを私は見ました。

(3) 私はこの群れを見失いました。そして、私は空気が、あなたの命を失うという点に達するまで、さらにあつく熱していったことに気づきました。

(4) この瞬間に、燃えさかっている(沢山の)小さい石(複数)の雨が空から降下し始めました。

(5) この幻の中で、その道にあるすべてのものを焼き尽くしながら、火と混合して、雨のように降下している沢山の石を見ました。

(6) これらの沢山の石が空から降下していたと同時に、地上に落ちた石は火事を勃発させて、道路のアスファルトは液体となりました。すべてのものが麻痺状態となりました。

(7) 至る所に火事がありました。火の炎は諸都市や村々に入って行きました。すべてのものが火の中になりました。私はヨハネの黙示録の天啓の恐るべき恐慌を見ました。すべてが麻痺し、滅ぼされました。火は小さい石を燃やしてしまいました。道路では、黒いタールは液体にされました。

(8) 私は、鳥や動物たちが

神の怒り

から逃げ去ったことを靈感を受けて悟りました。

(9) 誰一人として、誰のためにも、何も出来ませんでした。泣き叫び、涙、歯ぎしりをして泣きじゃくりがありました。それはマルチニーク島のフォート・デ・フランスにやって来た火の炉(天火)でした。

(10) イエスは、セブンスデー・アドベンチストたちに関して私に言われました。「もし、義人がかろうじて逃れることが出来るとすれば、ラオデキヤの者たちは逃れることは出来ないでしょう!」 13

(11) 至る所で、これらの隕石は荒廃の種をまき散らしていました。至る所に積み重なっているこれらの隕石、至る所に火で燃えている山積みになった石を私は見ました。

(12) それで、

神の怒り、怒り

であることを私は靈感を受けて悟りました。神の怒りはセブンスデー・アドベンチストたちの頭上に広がって行きました。そして神を持たない者たちの上にも広がって行きました。

13 「また義人でさえ、かろうじて救われるのだとすれば、不信なる者や罪人は、どうなるであ

ろうか。」ペテロ第一 4:18.

(13) しかし、もっと関係させられたのは SDA でした。この怒りは、

セブンスデー・アドベンチストたち

に直接向かって行ったものでした。神が

不快にさせられた神

が、ご自身の怒りを送られたのは、彼らにでした。

(14) 私は熱していました。私の皮膚は私を焼いていました。私は、この幻の中で、私の命を失うかと思って恐れていました。神は私を救われました。

(15) 「数ヶ所の場所では、人は原子爆弾の影響の下でできた眺望を目にすることができました。すべてのものが焦げて、灰となるまで燃えてしまいました。

(16) 至る所に、ガスの臭いがありました。空気中に放たれた(積み重なった石から出ている)原子核放射能を伴って、空から降下して来たこれらの積み重なった石の煙の臭いがありました。

(17) 一つの声がやって来て、このように言いながら、私を支えました。

「わたしの恵みは

あなたに十分です!」

(18) 摂氏 300 (華氏 572) 度の極限に熱せられた熱の効力の下で、鉄は曲がりました。

(19) 私は、距離を置いて、遠くで聞きました。「それは世界の終わりです! 私たちはもはや島々を持っていないのです! これは**終わり**です! こんな時に終わりがやって来るとは、いったい誰が信じたのでしょうか。マルチニーク島はもう存在しないのです。」

「夢と幻」第三

(1) 私がこの声を聞くたびに、

「わたしの恵みは

あなたに十分です!

」

私はもはや、私自身の上に熱の影響を感じませんでした。

(2) 私は幻へと出発しました。そして、私はマルチニーク島がこの怒りのもとにあって、この怒りを通過するための唯一の場所であったことを見ました。

レユニオンの島もまた、

神の怒りのもとに

倒れるでしょう。

(3) 私は幾人かの人々、すなわちこのように言っていたセブンスデー・アドベンチストたちを見もし、

また感知しました。「なぜ、牧師たちは、ジャン・ソトロンの「夢と幻」を信じることから私たちを妨げたのでしょうか。」

(4) 叫びと、泣きじゃくりがありました。譴責は牧師たち、SDA の指揮者たち(指導者たち)に向けられました。彼ら(教会員たち)は、これらの人々はこれらの「夢と幻」のメッセージに通じる道を彼らから塞いでしまったと言うことに気づいています。

(5) 彼らは絶望の中で大声で叫んで言いました。「あなたがたはそれが偽りの預言者であって、平和、平和、終わりが来るのは今ではないと、私たちに言ったではありませんか。」エレミヤ 8:11. 参照

14

(6) 「私たちは救われていない。

夏は終わりを告げました、

刈り入れは終わりました、

それなのに、

私たちは救われていない。」

エレミヤ 8:20.

(7) 彼らは、彼らの無力感の中で、彼らが命の君であられるイエス、神の御子を不快にさせたことに気づいています。

「それはもう遅過ぎます!

この SDA の人々は

避難所を持っていません。

」

(8) これらはイエスのお言葉です。

(9) 彼らは叫びました: 「見てご覧なさい。これは預言されていて、私たちの目の前に成就されていることです。私たちは救われないのです。私たちは、

失われたのです!」

(10) あなたがたは、あなたがたの命を救うために、ジャン・ソトロンの「夢と幻」によるイエスによって招待されたのでした。しかしながら、あなたがたは、それを後回しにするという間違いを犯してしまったのです。つまり言い換えれば、

あなたがた自身の救い

については、もう遅過ぎたのです。

14 「彼らは手軽に、わたしの民の傷を癒し、平安がないのに、「平安、平安」と言っている。」エレミヤ 8:11.

(11) やって来る怒りを前にして、イエスは私に言われました。

それは差し迫っています!

あなたがたの誰一人として、

SDA は逃れられないでしょう。

なぜなら、あなたがたは

軽過ぎる

と審判されてしまったからです。

「夢と幻」第四

(1) 「あなたがたは救われません。」

(2) これらは、私の言葉ではありません。これらのお言葉は、

あなたがたが侮辱してしまった

命の君、イエスの証です。

(3) 「あなたがたは、ただ唯一ミセス・ホワイト、エレンだけであろうと考えたのでした。神の民の運命を決定するあなたがたはいったい誰なのですか。」

(4) 主は言われました。

「あなたがたは

エレン・ホワイトの

預言の御霊と、

ジャン・ソトロンの

「夢と幻」とを

拒絶してしまいました。」

(5) これらのセブンスデー・アドベンチスト諸教会のために、主はこれ以上に何をすることがおできになるのでしょうか。

(6) イエス、

命の君は宣言されます:

「それはもう遅過ぎます!

あなたがたは避難所を持っていません:

あなたがたは救われません。」

(7) ヨーロッパには、信じて、神の印で印された者たちはたったの二人しかいないことを、イエスは私に明らかにされました。主は、オレゴンの避難所を彼らに提供しておられます。

(8)これらの二人の人たちは、背教ラオデキヤから
出て来た人たちであって、「残りの民」の一部を成
している人たちです。

ジャン・ソトロン